
GOD

A9

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G O D

【Nコード】

N 2 2 0 7 Z

【作者名】

A 9

【あらすじ】

主人公の「矢倉 将也」が目を覚ますと、そこには小人が。夢の中？ドッキリ？そして鏡に映る自分が変てこ風船！？
将也に何が？

第1話 「小人と変てこ風船」

世界はどうやってできたんだろう？

一体誰が作ったんだ？

自分の生きる世界のこと何も知らない。

てゆーか、知ってる奴がいたとして

本当にそれが正解なのか？

なあ、科学者よ・・・NASAよ・・・霊能力者よ・・・
偉そうに語ってた自論を俺の目の前に並べて頭を垂れる！！

(苦しい・・・ん・・・)

うつすら目を開くと・・・周りが揺れて見えた。

「うつ・・・気持ちワル・・・」

また目を閉じてうな垂れていると

ペタペタペタ

(足音・・・？)

「あれ？もしかして気がついたあゝ??？」

聞き慣れない女の人の声

俺が目を開けると目の前には500mlペットボトル程度の小さな女の子が……ん？女の……子？

「……夢かこれは？」

「魂が夢なんて見ないわよ」

「……何言ってるんだ……」

俺は冷ややかな目で女の子を見た

(こんな人間いるわけ無い。夢だな)

また目を閉じると

ドフツ！！

「うつつつ……」

「何目つぶってるのよ(怒)」

「バカッ！痛いだろ！！いきなり殴る奴いるかつ(怒)」

(あれっ……)

「あら〜どうしたのww」

「動かない！！あれ……手の感覚も足の感覚も、全身の感覚がない」

ニヤつく見ず知らずの女の子を凝視しながら動かない体にただ混乱

していた。

「ふふっ」

「な、何笑って・・・あれ!？」

俺は今この不思議な状況から更なる不可解な点を見つけてしまった・

「お前・・・今どうやって俺の正面にいるんだ・・・？」

「どうって、机の上に立ってるんだけど。それが何か？」

(机の上・・・立ってる・・・?)

「立ってるって・・・じゃあ俺は・・・？」

「うん・・・立ってると言えば立ってるわよ」

「はっ?」

「正式には、浮いてる」

「はあ??何言ってるんだって!?!」

「百聞は一見にしかずかしら、ちょっと鏡もってきてえ」

「はいただ今!?!」

(今度は・・・男の声だ)

「よいしょっ」

2リットルペットボトルぐらいの大きさの鏡を男の小人が持ってきた。

「お前・・・おっさんだよな？」

「おっさんとは失礼な!!」

「キヤーっ!!」

小人が鏡から手を離れたことで、鏡が女の子の方へ倒れかかっていた

「危ないっ!!」

「おっとっ・・・」

小人は急いで鏡を押さえた。

(セーフ・・・)

「ばかっ!!危ないじゃないの」

「す、すみません。。。」

「何やってんだよ。アホ」

「君ね、自分がどんな状態だか分かってるのか？それに僕に年齢という概念はない」

「わかんねーよ、早く鏡見せるよ。」
（年齢教えんのがそんなに嫌か。どっから見ても40代のおっさん
だけどな）

「生意気な奴ね、G3^{じーさん}」

「八八つじいさん（笑）！！おっさん超えかよっひでーなお前！！」

「ばか違うわよ、確かに見た目おっさんだけどさすがに、じいさん
はないわ」

「えっそこ否定してくださいよっ！！」

「私たちの呼び名、コードネームはアルファベットのGで始まるの
よ」

「コードネーム??」

「とにかくあなたは鏡を一回見なさいよ、はい」

「……ん何処映してんだよ」

「何処って、あんた映してんのよ」

「いや、映ってねーよ。ちゃんと映せよ」

「だから映ってるってば！！」

「はい、映ってますよ」

はぁ……

「いや、鏡いっぱい顔が落書きされた風船に包帯グルグルの変な置物が映ってますが……。」

「だから言ったじゃない、ちゃんと映ってるって。」

「だから、変な置き物が……あっ!!!」

「それがあなたですよ」

（嘘だ……嘘だ……嘘だ……落書きが……落書きの口が……）

「何してんのよ……。」

俺は、口と目を色々動かしてみた……

「……嘘……やっぱり夢だ……」

俺はまた目を閉じた!!ギョツと閉じた!!

バコツ

「ツツツテ……」

「あんだ、今日の前にぶつかってるものは鏡よね」

「……。」

「何が嘘なの？映ってるじゃないちゃんとあんだが」

「・・・ありえねーよ・・・何だよこれ、夢なんだろう？ドッキリか？そ
うだよ小人がいるわけ無い！俺がこんな変てこな風船な訳が無い、
、あっ着ぐるみか！？」

「もう、めんどくさいわよ。いい加減夢じゃなくて」

「じゃあドッキリだ。」

「ドッキリでもなく」

「なら夢だ」

「私たちが小人じゃなく」

「百歩譲って、世界中にはこんな人種もいるかもな」

「可愛い顔した風船でもなくて」

「俺は変てこなって言ったんだが・・・そつだ俺は風船じゃない」

「魂だつて気づきなさい」

「そつだ俺は魂だ！」

「なんだ理解早いじゃない」

「・・・たま・・・しい・・・」

「んな訳ねーだろつっ！！いい加減にしろつ！！」

「いい加減にするのはあんたよっ！」

「なんだとっ！！逆切れつっーんだよそーゆーの！！」

「あんたね〜・・・う〜ん、記憶辿ってみなさいよ。」

「記憶？」

「そつよ、死ぬ前の記憶。矢倉やぐら将也まさや」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2207z/>

GOD

2011年12月7日23時55分発行